「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

対　策　分　析　シ　ー　ト

対策メニュー名	窓の断熱性・遮熱性向上 （フィルム、塗料、ガラス、ブラインド等）	シート番号	A11327
システム・設備	空調システム	6 類型	部分更新・機能付加
削減余地順位	全体：27 位　産業部門：32 位　業務部門：22 位		

診断結果と対策提案実施の状況（診断結果は H28～R2 年度診断分、提案実施状況は H28～H31 年度診断分）

表 1．診断結果（対策の削減余地・診断時の提案率）　▶ 削減余地の大きい 5 業種（診断件数 20 以上）

	全体	産業部門	業務部門	25~31 機械工業	85 社会保険等の事業	18 プラ製品製造業	75 宿泊業	83 医療業
削減余地 [千 t-CO_2]	1,206	235	971	93	90	79	71	60
診断件数	3,303	1,216	2,087	127	484	69	215	179
診断時提案数	389	35	354	3	119	1	17	31
診断時提案率	12[%]	3[%]	17[%]	2[%]	25[%]	1[%]	8[%]	17[%]

表 2．対策提案の実施状況

	全体	産業部門	業務部門	25~31 機械工業	85 社会保険等の事業	18 プラ製品製造業	75 宿泊業	83 医療業
事業報告書提案数	360	33	327	3	113	1	14	32
事業報告書実施数	38	1	37	0	9	0	2	3
事業報告書実施率	11[%]	3[%]	11[%]	0[%]	8[%]	0[%]	14[%]	9[%]

表 3．実施された対策の内容

	項目		最大値	中央値	最小値	平均値
提案・実施内容	CO_2 削減量	[t-CO_2/年]	53.0	1.5	0.06	6.4
	導入コスト	[千円]	11,849	664	0	6
	運転コスト削減	[千円/年]	1,641.0	57.8	3.7	225.5
	投資回収年数	[年]	291.0	19.0	0.0	48.0
	事業所 CO_2 削減割合	[%]	18.7	0.5	0.039	2.4

表 4．提案された対策の実施理由・未実施理由

実施理由	初期費用が安かったため	7	実施理由の半数が初期費用、補助金などの投資コストに係るもの。
	補助金を活用できたため	4	
	投資回収年数が短いため	0	
	省エネ効果の根拠が明確で確実性があるため	4	
	その他　（無回答を含まず）	8	
未実施理由	初期費用が高かったため	51	未実施理由の７割が初期費用、補助金、投資回収年数といった導入コストに係るものであり、実施、未実施ともその判断は投資コストが理由の多くを占めている。
	提案された設備の機能や運用に懸念	1	
	補助金を活用できなかったため	5	
	投資回収年数が長かったため	30	
	省エネ効果の根拠が不明で確実性がなかったため	13	
	既存設備がまだ使えたため	3	
	対策実施により事業所の操業に影響が生じるため	5	
	その他　（無回答を含まず）	15	

表 5．同時に実施されることが多い対策

同時実施の順位	メニュー番号	対策メニュー名	同じ大分類
1	11135	高効率パッケージエアコンの導入（老朽化更新を含む）	○
2	11316	冷暖房設定温度・湿度の緩和	○

※ 特記事項

実施された対策について（表 3）

(1) CO_2 削減量で 50[t-CO_2/年]以上は 7 件あり、提案通り実施した最大事例は導入コスト最大事例でもあり、老人ホームの窓の 1/4（270[m^2]）への複層ガラスの導入で 30[t-CO_2/年]削減、投資コスト 6.7 百万円、投資回収年数 4.3 年（補助金活用）。

(2) 投資回収年数最大事例は、2.2 百万円で遮熱フィルムを（180[m^2]）施工。

(3) 事業所 CO_2 削減割合の提案通り実施した最大事例はペアガラス窓の断熱（51[m^2]、5 百万円）により、事業所 CO_2 を 15.5[%]削減。

(4) 導入コスト「0」の事例は「ブラインド・カーテンの管理ルールの設定と徹底実施」であり、運用改善のみで 99[万円/年]の効果を得ている。